

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震・能登豪雨 災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2025年6月12日（木）

■活動隊員：酒井明子・佐々木久美子・網木政江・寺田英子・作川真悟・金谷雅代・朝田和枝・
花房八智代・福島芳子・紫宇代 記録：金谷雅代・紫 宇代

■イベント名：珠洲市大谷地区イベント「集ってみん会」

■目的：イベントを通じて近隣住民同士の交流を図る。

■開催日：2025年5月31日（土）10時00分～13時30分（14時解散）

■開催場所：大谷町第1団地集会所

■実施内容

- 1) サンドウィッチ作り
- 2) 健康チェック・健康相談（健康や生活に関すること）
- 3) 体力測定：握力
- 4) 健康体操：座ってできる脳トレ体操
- 5) 交流会（食事会、カラオケ大会）・よもぎもちぜんざいふるまい
- 6) 仮設住宅巡回個別訪問（ストレスチェックの高い住民対象）

■住民参加人数：参加自由にて概算数36人（名簿記載25人）

<活動の実際>

■サンドウィッチ・ロールパン作り

集会所では、土日に何らかのイベントが開催されているため、仮設住宅の住民さん、近隣の住民さんが参加された。学会の活動隊員により事前に準備された食材を並べ、住民さんが自由に参加できるスタイルで調理を行った。サンドウィッチの種類は、ミックスサンド・卵サンド・レタスサンド・ロールサンド。つけ添えに季節のフルーツ、パイナップル・キウイをパックに詰めた。多くの住民さんの参加・協力で100人分の軽食ができあがった。

■よもぎもちぜんざいふるまい

切り餅を柔らかくし、よもぎ粉を混ぜて一口大のよもぎ餅を作成した。粒あんと、こしあんを混ぜて調整したあんをよもぎ餅にかけた。サンドウィッチやお茶とともに配布した。住民同士の会話も弾み、「おいしいね」「よもぎのにおいがするね」「甘さがちょうどいいね」と笑顔で食されていた。

■健康チェック・健康相談・体力測定

健康チェックリストを配布し、フレイルチェックを行った。バイタルサイン測定を行いながら握力を測定した。健康チェックリストに記載して、自身の健康状況について把握して頂いた。健康相談は1件で、下肢の痛みに関する相談であった為、整形外科の受診を勧めた。

■健康体操

6月初旬に優勝・横綱昇進した石川県出身の「大の里」の力士にちなんで「大谷の里」の力士に扮装し、脳トレを含む、座ってできる力士体操（オリジナル）を実施した。集会所内には多くの

参加者が居られ、手狭な状況であったが、住民さんが積極的に参加され、一体感を感じるリズムの中で笑い声が響いていた。

■カラオケ

準備したハンディカラオケセットで、歌唱を勧めたところ、歌の好きな住民さんが積極的にマイクをもち、歌声を披露していた。一曲ごとに点数が表示され、お互いに褒め讃え合っていた。震災前には市内のカラオケ店に出かけていたという住民さんもおられ、久々に歌う時間を楽しまれていた。終盤にはサンドウィッチを受け取りに来た方が飛び入り参加で歌っている様子も見られた。

■仮設住宅巡回個別訪問

調理したサンドウィッチ・ロールサンド・フルーツを持ち、以前の調査でストレスチェックの高値を示した住民さん宅を主に訪問した。訪問の際に「今日は何かやってるんか？」とにぎやかな様子を気に留めていた。持参した軽食をととても喜んでおられた。不在宅も数件見られたが、住民さん同士では、不在状況が把握できている様子が見られた。

■所感

2024年1月の地震後、9月の奥能登豪雨でさらに甚大な被害を受けた大谷川の左岸は、車両の通行が可能となったが、右岸道路は未だ工事中である。橋脚が落下したままの箇所も残存し、断水も一部継続している。大谷小中学校のグラウンドに仮設住宅が立ち並んだため、子ども達が運動できるグラウンドには今もなお制約が続いている。

3月に実施した仮設住宅訪問の結果では、睡眠不足、筋力低下、引きこもり、脳梗塞発症やアルコール過剰摂取などの健康上の課題が抽出されている。住民さん同士の交流の場では、珠洲ささえ愛センターとピースボートの共催にて毎週火曜日にお茶会が行われており、健康体操、物資の提供、困りごと相談など、約30人程度の参加者が見られている。

今回実施した食を介したイベントでは、住民の参加率が高く、住民さん同士が一体となって作業する様子が見られた。参加できなかった近隣の住民さんを気遣い、自宅に届けるという関係性も構築されていた。このような大谷地区の住民同士のつながりを活かし、互いに支え合う関係性の持続に寄与できる可能性がある。

参加者と共同作業を行う中で、参加された住民さんから「失ったものも多いけれども得たものも多いです」と言葉が聞かれ、感慨深いものを感じた。また、サンドウィッチを作りながら、日頃の生活状況を伺える場面もあった。例えば「野菜作りが楽しみであつたが、去年からイノシシ被害がひどく、食べられる野菜がなく、イノシシの為に野菜を作っているようで、やる気がなくなった。野菜作りをやめた」など、自分の楽しみを模索しつつも、その中での困難感も話されており、交流を通じて自分の思いのたけを表出されていた。一方で、水害をうけ避難所にいた頃はいつも怖い夢を見ていたという高齢女性は、仮設に移住してからは、息子と新しい家を建ててお花いっぱいの中で暮らしたいという夢を持ち続けながら、「2階で鉢植えの花を沢山育てている」と、自宅を指さし見せながら嬉しそうに話され、以前より落ち着いた様子が伺えた。

交流会のカラオケでは得点も表示されることから住民さんの十八番が飛び交い、皆の歌声に酔いしれている表情も伺えた。もともとカラオケが趣味で自宅でも声を出して歌っているという方がおられ、従来の娯楽を楽しんでもらえたようだった。震災前の生活の中で行ってきた習慣・行

事や楽しみを再開する事は住民さんにとって心和む時間であり、それぞれのニーズをくみ取り余暇を楽しむことは大切であるとする。

このたびのイベントを安全に遂行できたことは、住民さんをはじめ、皆様のご協力があったることと心より感謝申し上げます。

■ 写真



住民さんとサンドイッチを調理する



サンドイッチをカットする住民さん



分担して調理する住民さん



出来上がりサンドイッチ



「大谷の里」と健康体操